

稿 思い出の先生方

スケート先生の 曲球チヨーク

36回 宮尾 正雄

大正の末期から昭和四年頃まで私共は母校に学んだクラスです。比の頃恩師の方々に、夫々特徴のある方がおられました。その中の一人、スケート先生がおられる。

いつも詰襟の洋服で、銀縁のメガネ、イガグリ頭、稍長身の飄々たる数学担任の小島芳衛先生であります。

私の家内と先生の四女佐藤さん(真野病院長、故佐藤氏の未亡人)が、新潟高女の同級で親しく、時々遊びにいらつしやる。先日、佐藤さんから聞いた父の思い出、私のイメージを合せながら、スケート先生の思い出をたどって見ました。

昭和九年四月我々第四十六期生は光栄ある青山健児として、童顔に胸をふくらませて、新潟中学校の正門をくぐった。私の編入されたクラスは一年五組で、クラスの主任教官は数学の芝間先生(別名ギヤクボタル)英語の教官は、伊藤治三郎先生(別名オット)である。

昭和九年四月我々第四十六期生は光栄ある青山健児として、童顔に胸をふくらませて、新潟中学校の正門をくぐった。私の編入されたクラスは一年五組で、クラスの主任教官は数学の芝間先生(別名ギヤクボタル)英語の教官は、伊藤治三郎先生(別名オット)である。

昭和九年四月我々第四十六期生は光栄ある青山健児として、童顔に胸をふくらませて、新潟中学校の正門をくぐった。私の編入されたクラスは一年五組で、クラスの主任教官は数学の芝間先生(別名ギヤクボタル)英語の教官は、伊藤治三郎先生(別名オット)である。

オットとヂヤムフライ

46回 小山 崇熙
(新潟高校校医)

私の印象にのこる先生は、まず学校長八木光貴先生であります。その機に臨むや、最後の「パンザイ」三唱のさい渾身の力をこめて、腕腕さし上げ、真剣のさげび三度、夕身のふるえる感激、青山健児のシンボルと思えてならなかった。

与えられるのである。即ち、不可に不拘、出来、不出来によらず、その人の勉強の度合いを観ぬいての言であるから、ピリツとして、気がよくて忘れられない。田村芋虫先生も、長い担任でしたが、温厚のお方で、有難く思っています。八木先生もあの様にお丈夫の方と思っていました。に、歯が悪くて急逝されました様に聞いて、本当に人生のはかなさを感じた事がありました。謹んで御冥福を祈念いたします。

の好々爺だったとの事。七人の子福者で、皆さん御健在との事。先生は加茂の出身で、東京高師を卒業なされ、佐渡相川中学から、大正八年新潟中学に転任され、昭和十年頃教職を辞され、学校町二に私塾を開いておられたとの事、明治十五年の生れだそうですので、私共は三十五才頃から四十才位の脂の乗りきつた頃の先生に教わったことになりました。昭和二十年、終戦の年に亡くなられ、六十三才だったとの事です。

ばかり答えた。「ヂヤムフライ」オット云々、「ヂヤムぢやない、バターフライだ。」一同どっと爆笑す。以来石川君は、別名ヂヤムフライとなった。現在石川君は何処で何をしているのかその住所職業は定かでないが、再会したい同期生の一人である。あの当時は新中の屋内運動場の入口にパン売りが出張して来ていて、食パン半斤十銭だったと思う。それに砂糖かヂヤムをつけて十五銭位だったと思う。あの当時の生徒の気持ちになつて考えてみると、パンにつけるものは何かと云われ、ば、砂糖かヂヤムを連想するのが極めて自然であつたのではなからうか。彼がヂヤムフライと答えた事は、極めて当り前の事だつたと思う。蝶は英語でバターフライであるかも知れないが、十五、六才の少年には、ヂヤムフライがあつた場合極めて自然の答え方であつたと思う。私もあのオットのヒントで答えるならば、やはり石川君と同じくヂヤムフライと答えていた事と思う。あれ以来私等の胸の記憶中板に、蝶はバターフライなりと深く銘記されている点、今は亡きオットの御指導のお陰であると今も感謝している次第である。

であつたのではなからうか。彼がヂヤムフライと答えた事は、極めて当り前の事だつたと思う。蝶は英語でバターフライであるかも知れないが、十五、六才の少年には、ヂヤムフライがあつた場合極めて自然の答え方であつたと思う。私もあのオットのヒントで答えるならば、やはり石川君と同じくヂヤムフライと答えていた事と思う。あれ以来私等の胸の記憶中板に、蝶はバターフライなりと深く銘記されている点、今は亡きオットの御指導のお陰であると今も感謝している次第である。

思い出の同級生 原天林君

30回 遠藤種雄

それは原天林君のことである。冬期暖房のそばで、三堀謙次君と喧嘩した場面、原君はきびしい顔で、右手を制服のポケットに突込み、ツカツカと三堀君のそばに進み、拳で彼の頸筋のあたりを打った。その手をあてると血がにじみ出ていた。彼は泰然として一言もいわず原君の方を手ラツと見て去つた。

た。傷の手当をする為であらうか、そのあと三堀君はニユヤイで俺が悪かつたと洩らしていた。原君は英語もスマートで、発音もきれいで、浜島先生にもほめられていたこともあつた。中学を出てから医者への学校に入ったとか、医者になつてから間もなく病死したとかうわさを聞いていますがあつたことがありません。私共は中学時代三堀君なども柔道などをやりました。一語に仲よく話し合いながら家路に向いました。おとなしやかな生まじめな人であつた様に思われ、一種のなつかしさを覚ゆるままに、あえてこの原君をアップいたしました。

八木先生の パンザイ

30回 遠藤 種雄

新教育課程実施後初の大学入試で注目された昭和51年度春の入試で、本校卒業生は特に国立大学で好成績を示し、新潟高校ここにありの意気をあげた。特に地元新潟大学には97名が合格し、ここ数年低迷を続けていた状況から脱したとの感を深く印象づけた。また有名私立大学への進学も好成績をおさめ、全般に青陵健児の健斗が目立つ年だつたと云えよう。以下主な大学への入試合格者数を三ヶ年の比較で紹介し、合せて来年度の

大学名	49年	50年	51年
新潟大	71	69	97
東北大	18	27	32
一橋大	4	5	5
東京大	16	10	5
京大	2	5	5
東工大	2	5	5
京都大	2	4	4
秋田大	3	6	11
山形大	20	12	13
山形大	3	6	11
東京外語	2	1	3
信州大	5	7	9
早稲田大	74	74	81
慶応大	28	43	46
中央大	29	37	46
上智大	11	13	12
青山学院大	11	13	12
明治大	38	23	30
同志社大	20	46	48
立命館大	16	19	18

今春の入試 国立大学に 好成績

新大は97名

過去の結晶



息吹きの温床である……

52回53回の諸兄は、戦争末期の昭和19年から20年にかけて、1隊は長岡へ、他の1隊は名古屋へ、それぞれペンをハンマーに持ちかえての勤労生活に従事し、特に名古屋部隊は、たとえ戦争のためとはいえ、苦勞の末多くの飛行機を産出した。その機を名付けて「瑞雲」という。以下はその学徒動員生活が続る生々しい記録である。

蒼鷹

52回 沢田義郎

一冊の古びた雑誌、表紙には、「蒼鷹」と記されている。白馬の蹄たからかに黄金の征矢燦爛と鹿を追うは今なるぞ碧天高く雲晴れて蒼鷹一羽空に舞ふ

出師の時ぞ心地よし「蒼鷹」はこの応援歌からとったものであろう。表紙をめくると、第五十二回、第五十三回、卒業記念誌、動員追悼号、新潟県立新潟中学校と、日次には表紙の説明がある。表紙……(カット及び題字)……中田みつほ先生、更に序文にはこう記されている。「現実がひどいものであればあ

る程、万感胸に溢れて懐かし、過去を振り返る思いの切なるは、誰しも同じであらう。そして、「あんなこともあった。」「こうでもあった。」と数々の思い出、懐旧談の自ら湧いてくるのも蓋し当然であらう。苦楽を共にした懐かしい友と胸を開いて語り合いたい気がしてくるのである。

吾々の後輩にも語って聞かせたい気もするではないか。」と。

我々には修学旅行の思い出もない。卒業記念の写真もない。昭和二十一年八月に発行された「蒼鷹」のみがある。これをひもとくとまさに序文にあるごとく、万感胸に溢れて、懐かしく思い出される。そして編集の旁にあたった諸兄に感謝したい。

今、この二冊の雑誌が、青陸の歴史をつづる史料として役立つという。

動員日誌より抜粋 『名古屋部隊』

八・十一ヶ月程前に我々新中五年及び四年の大部分の生徒の名古屋への動員が確定し、戦争の不利益を我々学徒の力で一意気にも返そうと張切って、その間諸種の準備を整えてきたが、いよいよ第一次部隊出発となる。約二五〇名の第一次部隊は駅頭における感激的な壮行会の後十九時十五分、遂に新潟の地をはなれ上越線、東海道線経由、

八・十一ヶ月程前に我々新中五年及び四年の大部分の生徒の名古屋への動員が確定し、戦争の不利益を我々学徒の力で一意気にも返そうと張切って、その間諸種の準備を整えてきたが、いよいよ第一次部隊出発となる。約二五〇名の第一次部隊は駅頭における感激的な壮行会の後十九時十五分、遂に新潟の地をはなれ上越線、東海道線経由、八・十二 鍊成開始、作業衣、靴

などの配給あり。

八・十五 動員受入式が本館の講堂にて行はる。

八・十七 いよいよ各職場配置、分散配置にして各個人毎に職場が異なるも、航空機の直接生産にはじめて当る事ができて大いに張切る。我々の作業種類は

才一小隊 機械修理作業……

………焼入、焼戻し作業。

才二小队 仕上、現図作業。

才三小队 鋸打ち、エンジンカバー、エンジンベツト製作。

才四小队 機体及び発動機整備

以下略

九・二十八 最初の給料が支給される。たしか十五日だったと思うが自らの勤勞の汗によつて得たものであると思うと娑婆の千金より有難い。

十 「お母さん僕の体を見て下さい。この細い腕、げつそりやせたまは。首すじの不衛生からくる皮膚病の数々。そして蚊と蚤とで天然痘のように腫れあがった四肢を。僕は今脚気で歩くことすらできず、夜盲症で夜は便所へ行くこともできません。(中略) この作業衣には汗と油とほこりで真黒になった上にハンマーで指をつぶした時の血がにじんでいます。一日中家のことばかり考えつづけております。(後略)」

これはある気の弱い生徒が故里の母に送った手紙の一節。

十一・五 初の空襲警報かかる。

十一・二十七 午後一時B29一機初の訪名。四条の飛行雲を引き、

美しい機体を銀色に輝かせつつ十二・七 午後一時三十六分二〇秒。突如として大地震名古屋を襲う。工場、瞬時にして作業不能となる。

十二・二十 防空壕構築す。なお余震続く。B29の来襲多く。最高一日七回。

二十一年・八 新潟県よりお年玉来る。

一・三十一 徹夜作業に従事す。

四・三・四 母校を遠く離れた名古屋の地において我々の卒業式。ささやかな中にも厳肅に挙行さる。

五・二十五 正午瑞雲最終機一九六号を送り出す。送別の式あり。この日新中生の一部三十時間の連続作業に従事せしめる。夜は我等の重大任務遂に終る。夜は牛肉一人百匁づつ配給。飲めや歌えやの大コンパあり。

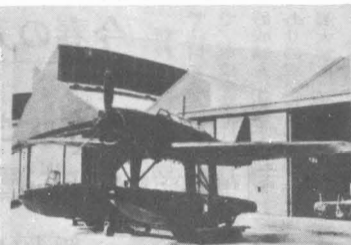
六・二十五 飛行部に所属する者を除き瀬戸工場に再配置転換になる。

七・七 本日愈々引揚げ、瀬戸よさらば、名古屋よさらば、懐しの昭和寮、寮生活よさらば、懐しの昭和中の生活を思い出した。私が自分の組の手直しを全部終了してはつと一息ついた時、「瑞雲」は完成の域に到達していた。機上より降りて、更めて視る〇〇号の英姿。そこも、あそこも、吾々が手掛けた青山魂の権化ではないか。翼は折られたまれば、間もなく整備工場から搬出用のトラックが到着した。そして搬出の任に当る整備員が来る。整備員も又新中生である。機体はクレーンに吊

工場生活寸景

金居 直

手直し箇所を指示した黒板の一行一行が次々と消されていった。



そして翼上に発動機上に踏台の上。胴体の下に吾々の一人一人が自己の全能力を傾注してピスをしめ操縦系統の修正に頭をひねり、或は各部の試験にと最後の磨きをかけて居る。〇〇号の搬出時間後数

時間後に刻々と迫って居るのだ。無線支柱に結びつけた桜花に「中」の字をあしらった新中応援旗が海風になびいて、へんぼんとはためく。私はベンチを握ってパイプの掲げ線をつとめながら八月以来、九カ月間歩んで来た航空機生産の道を振り返り、今新中生の手によつて、飛行機が誕生するといふ否定し得ぬ大きな事実を思った。私が自分の組の手直しを全部終了してはつと一息ついた時、「瑞雲」は完成の域に到達していた。機上より降りて、更めて視る〇〇号の英姿。そこも、あそこも、吾々が手掛けた青山魂の権化ではないか。翼は折られたまれば、間もなく整備工場から搬出用のトラックが到着した。そして搬出の任に当る整備員が来る。整備員も又新中生である。機体はクレーンに吊

長岡動員部隊

沢田義郎

九月二十五日、我々の長岡への出発の日が来た。草分けの先生阿部利三郎先生統率の許に入寮を済ましたのである。夕闇迫り来る午後六時夕食を食わんが為に工場へ向つたのである。工場には既に灯火は明々と点いていた。ここに我々の驚べき点が多々あったのである。工場とは我々が思っていた様な殺風景な所ではなかった。特に当津上はそうかも知れないが、堂々たる鉄筋コンクリートの建物に植木、青い窓(この青窓は特に

下げられ、尾と主翼を上下して、吾々に別れを告げて居るかの様だ。そして運搬車の上にドンと降るされるとトラックにゆつくり引張られて、工場の敷居を出て行った。「これも遂に出たなあ」

友は感慨深げにこう一人洩らした。一機でも多く、一機でも余計にとの前戦の叫び……その一機が皇軍の傘下に馳せ参するのでも速い日ではないのだ。胴体後部に書かれた名譽ある「新潟中学製作」の六字は特に願つて入れて貰ったものである。(中略)

来る日も来る日も吾々の手がけた機が試験飛行をやっている。今日も半日の仕事を終つて食事のため寮へ帰る途中、吾々の頭上をかすめてゆく「瑞雲」の垂直尾翼に赤線二本の桜マークが輝いていた。私は筆舌で表現し難い何物か胸がいっぱいだった。

(前項より続く)

間に合わなくなるだろう。朝礼が終ると掃除である。前の方だけ片付けて肩は後の方へ、先生が回つて来て窓越しに「此の部屋は非常に宜しい。」「テヘ」たわいもないものだ。折しも「食事に行け、飛び出す。起床は処女の如く、食事は脱免の如し。」

舞台に立たしめばや……どうやら長い四時間を過ぎ「ピー」再び集つて寮に帰る。寮の近くまで来るとパンと菜のにおい、又菜か、食堂へ行こうと思つてカードを外すと穴があいている。ア、そうだと俺は弁当をもらったのだつた(此の理由は……)而も腹の空いたのにたえかねて朝のうちに食べてしまったのだ。腹の虫がグーグーと鳴く。

短歌

俳句

阿部利三郎

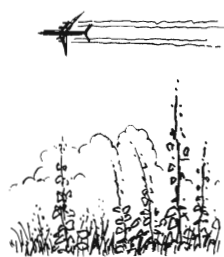
長岡出動中の雑詠

大雪に廂おほかた崩れ落ちて 工場の寮は春荒れて居り 只管に大君がため 汚れなき若き丈夫の 帰るなき門出は妖雲を掃らいて 大なるなきみいきの尖兵として

詩二題

親友 石橋君を悼む

言ふなかれ君よ別れを 世の常を又生き死にを うたいたり戦友別盃の賦 呼びたり史神回天の詩



蟹の子のあるきまはるや朝の露 知らぬ町歩いて秋をおしみけり

三たび食ふ飯の中なる豆の味の うまくなりつつ心おちつく 火の誓い今ぞ燃えたり されどああ戦は終りぬ 大なる悲しみの中に みならず死の沈黙あるのみ 大なる時の手は暗雲を払えり

我は見たり 関の罪患史青天に赤裸たるを 敗戦の涙は憤におきかへられぬ 君よ如何にみるや敗れたる国 虚偽に満ちたる比の国を 今にして君が死益々悼めり 大君の御名をかたりたる犯罪者の 毒牙にかかれる君を されど君は南溟の空に 今も微笑みて我を見るなり 「言ふ勿れ君よ別れを 見よ空と水打つ所 黙々と雲は行き雲はゆるるを」 男子意気に感じては 成否何ぞ求むべき。

春を告ぐ

ボタリ ボタリ 春陽をあびて 軒を離るる玉しずく たえまなく ちろちろと 地をうるほして 流るる玉しづく 人はお前の力を知らない。 お前は草に 花に息吹きを吹きこんで 春をつけている 日本に春をつけている 沈黙と圧迫の 霜枯れの草をうるほして 暖い萌え出る 春をつけている。

終りにあたって

あれから30年、今考えると中学生(現在の高一・高二)でよくやったと思う。我々の手で製作した飛行機瑞雲(水上機)が南の空へ何十機も飛んでいった。夜中までの作業、毎晩の大雪襲、名古屋大地震等々、苦しい事もさして苦にせず、黙々と働きたる余暇には金城高女のロマンス、腹が空けば下駄ばきにゲートルを巻き、マントをなびかせて雑炊屋へ…… 戦時下の青陵健児は名古屋の地で大いにはばたき、伸び伸びと生きてきたことがなつかしくもあり又得難い人生経験でもあった。

52回岸田

編集部より

今号は、ご覧のように、常連のクラス会だよりのご報告が、ありませんでした。そのかわり戦中から終戦にかけて、青山同窓会の中でも唯一という学徒動員の体験をもつ52回53回生の記念誌を引用。戦後生れが日本の総人口の半数を越えたという今日、青山同窓会の持つ歴史の重みを今一度味わってもらいたいものです。 思い出の先生方、校友、クラブ等、寄せられた一文の中に過ぎし時を想い、編集の任を終る。

昭和50年度青山同窓会費納入者追加分 (1月~3月納入のもの)

Table with 9 columns: 期及氏名, 期及氏名, 期及氏名, 期及氏名, 期及氏名, 期及氏名, 期及氏名, 期及氏名, 期及氏名. Lists names and amounts for the 50th anniversary fee collection.

記の艇想



青山漕艇部OB会

のOB会を開催した。時昭和五十二年五月二十三日、集う者三十八名。同窓会より鍵富会長の特別臨席を戴き、冥土への土産話にでもしたいということで、神田大先輩(三十一回卒)の参加を得て、ここに爺も孫もわけへだてなく盃を上げ、往時を偲び歎を盡したものである。

今回は特に新艇建造を記念し、又五月九日開催のBSNレガッタに於ける優勝盃を正面に飾り、その披露を兼ねての集いであつたが、現役選手団渡辺主将以下八名の紹介と挨拶があり、檄を受けて今後の健闘を誓いながら晴々と引上げていく彼等の後姿を、一同で見送つた時は誠に感無量のものであつた。吾が漕艇部は、前身の新潟中学の昔から實業剛健をモットーとした特異の風を高揚して、全国にそ

の名声をばせ続けて来たものである。全国大会では、或は琵琶湖に隅田川に、はたまた戸田橋コースで常に強敵として、相手クルーからマークされて居つた。

当時の練習たるや正に文字通りの猛訓練の連続であつた。木村逸郎大人(三十回卒)が二高(旧制高)校(仙台市)の漕法を持ってこれられ、これを鈴木茂二先輩(三十四回卒)等が受け継いで、青陵健児の風風に合わせた強引な練習が繰返されたのである。栗ノ木川を遡行して鳥屋野湯にはいり、広大な湯で夕日の傾く逆漕ぎに漕いだ。ヘトヘトになる頃「力漕、あと百本」とくる。完全にへばつてしまつと「死漕、あと五十本、死ぬや、死ぬや」と怒鳴るコックスの叱咤も血をはかんばかり、掌から濡れ

た豆の血を流しての練習ぶりは、今思い起しても身震いがする。今の過保護の教育ママがこれを見たら、仰天して失神すること間違いないという位の猛烈さであつた。こうした猛訓練の成果により全国制覇の夢もかけ得られたのであり、一朝一夕のことで築きあげられたものではない。この悲壮なまでの苦闘はオールを握つてみなければ到底理解はできないと思ふ。

然しこうした練習の合間には、夙合戦の參觀を兼ねての白根遠漕で雄大な風を養ひ、或は時の村長近藤様(九回卒)を訪ねての油川遠漕で家庭的な和氣萬々の一時を過ごし、又は銘酒越の寒梅の石本先輩(三十五回卒)の庭園で、喰いたい放題の園遊会に招かれたり等実に愉しい忘れ難い思い出もある。ボート部は三校レースの昔から

(新潟師範・新潟商業との対校レースで、大きな喧嘩沙汰があつたが筆者のよく知る処ではない)何かと事件を起したものである。嚴重にさし止められて居つたにも拘はず、ひそかに然も堂々と新潟港沖合に停泊中の軍艦陸奥を見学せんものと、その艦側に艇を漕ぎつけて大目玉を食らつたこと、信濃川の中洲に恙虫発生というこを聞き、世の為人の爲正に社会奉仕のつもりで、中洲に艇を漕ぎ寄せ、そこに生い茂つていた枯草に放火して問題をまき起したなど様々な種をまいたものであるが、こうした事件は何れも若人の熱血のほとばしりから生じたもので、往時の別称新中端艇部武士団の誇りをいや高く上げんものとの純情の発露に他ならない。その意気や壮その心情や誠に愛すべきものがあ

つた。当時も又今のように新艇を三隻建造することになつたが、端艇部後援会長たる新潟医大の中村先生(八回卒)の紹介状を携えて諸先輩を親しく訪問してお願いしたり、活動写真・映画の観覧券を売りさばいたり、果はあずき湯水水の販売をしたりして資金をかせぎだしたもので、今の人々ではとても想像もできないことと思ふ。

幸にして今年には新艇もできた。選手諸君の意気も高い。光輝ある漕艇部の歴史を引継いだ若人達の奮起により、再び黄金時代を築き上げて全国にその名声をひびかせるべく、大いに頑張つてもらいたい

と切に望む。更に新艇を建造することや、艇庫の問題などでこれからも種々と費用と努力が要請される事であろうが、漕艇部OB会の今後の活躍を期待したい。

艇を想う同志の集いに幸多かれと祈つて止まない。

終りに、この会の為に母校の漕艇部長大橋先生が非常にお骨折りに下され、又七五回卒の渡辺君が熱心に幹事の労を取つて、大変な努力を重ねてくれた事に對し、ここに深く感謝の意を表して筆を擱く。(文責 三八回 山口)

洋々たる信江の流水を眼下にし田中ホテルの一室で、青山漕艇部新顧問を迎え、沢田先生と共に現役を御指導いただくことになつた。そこで、両先生及びOBとの顔合せということで、両先生をはじめ飯塚先生・片岡先生にも御出席いただき、去る七月六日、学校町の「一平」において、新潟高校山岳部OB会が開かれた。

今回は、新潟市内の在住者が集まつたOB会であつたが、普段仕事の関係で出席されてなかつた方々も出席され、初めてお目にかかつた方も二・三おられたようである。

OB会での話題は、現役時代の思い出や失敗談、近況などである

が、話は自然と山の事になる。吉副先生は今年の夏、ヨーロッパルプスへ行かれるそうである。我々OB会においても以前より、我々も現役と共に海外の山に登ろう。中心に、OB会がバックアップして、現役諸君に第3次山岳部黄金

今回のどうなることや、今後期待したいところである。ともあれ、吉副・沢田両先生を中心に、OB会がバックアップして、現役諸君に第3次山岳部黄金

りが近くなる。ひとしきり歌つたところで、最後はもちろん「ますらお」でしめる。もしその頃、あの附近を通られた方がおられたならば、あの何とも形容し難い歌声を聞かれたはずである。解散後はいつものごとく、二次会、三次会と流れ、各自思い思いに家路へとついたのである。最後に、今回OB会に出席された方々は次の通りである。

「顧問」は 沢田、吉副、飯塚、片岡の各先生方。「OB」は63小林(光)、64石山、65北村、65堀川、66吉田、67石田、69西山、75樋口、75安藤、78山口、78竹田、78阿部、79浅野、79石沢

剣道部と西山義雄君のことである。彼は主将であつた。私は三年生のとき、剣道の試験で十二人抜き、十三人目に三堀君と立合ひ、小手をうたれて負けてひきました。その時の先生のお名前を忘れませんでした。(森元先生かな?) 准尉級のお方であつた。それから剣道が好きになつて、先輩本間さん、長沼さんたちから道場で稽古つけていただきました。五年生になつてからは西山君がキャプテンで、副は森田茂君で、坂井君、二木君、平石君など錚々たるメンバーであつた。優勝旗もいただいた様に思ひ

ヒマラヤへの夢 黄金時代再びか?

山岳部OB集う

ヒマラヤへ行こうではないかなどかなりスケールの大きな話が出てくるのではあるが、全く具体化する気配はなく、水泡のごとく出ては消えるのが常であつた。果して



山岳部OB集う
時代を築いていつてもらおうという総意を得たところで、徐々に酩酊状態に移行していく。それと共に話題も各グループごとに別れ、山の歌が出ると、会もそろそろ終

西山君は少年の頃から武徳殿に通ひ、白哲の美少年、温和の人柄のお方であつた。所謂練達の士と言わんか、戦死された由 転々愛惜の情に堪えませぬ。西山先生はお健在で、現在東京蒲田で歯科医院開院され、令名噴々、よく私共の面倒を見て戴きまして感謝に堪えませぬ。

剣道部 西山君のいと

30回 遠藤種雄

西山君はホイチョクと掛声勇ましく、敏捷で、面が得意であつた様で体力もあり、堂々たるもの、上村先生も大いに期待されていました。

森田君は少年の頃から武徳殿に通ひ、白哲の美少年、温和の人柄のお方であつた。所謂練達の士と言わんか、戦死された由 転々愛惜の情に堪えませぬ。西山先生はお健在で、現在東京蒲田で歯科医院開院され、令名噴々、よく私共の面倒を見て戴きまして感謝に堪えませぬ。

(文責 石沢)

報告 陸上競技部長距離で

インターハイ初出場かなう

新潟高校 雨 木 若 慶

私は、先日福井市で行なわれた北信越大会に出場し、幸運にも五千メートル競争で激しいデットヒートの結果辛くも入賞を果し、全国大会出場の特権を得ることができました。インターハイ出場は、陸上競技を始めて以来、私の夢でした。その夢を果すことができたのも、この新潟高校陸上部に入部したからこそだと思います。

入学早々、顧問の三浦先生より入部を促され、確固とした意志もなしに始めた部活動でしたが、先

二年に進むと勝負に対する欲が始めましたが、一向に記録の向上が得られず、挫折を感じ始めました。今日こそ明日こそ先生に退部を申し出ようかと幾度か考えることがありました。しかし、周囲の友や、先輩に励まされ、改めて考え直すことになり、練習量が足りない事に気がきました。長距離という種目は、他より秀でた素質は必要ありません。他より多く練習を消化して、着実に力をつけていきます。それまでごまかしながらやっていたのですが、完全に切り換えて、とにかく走ることにしました。県大会で予選落ちした悔や

二年に進むと勝負に対する欲が始めましたが、一向に記録の向上が得られず、挫折を感じ始めました。今日こそ明日こそ先生に退部を申し出ようかと幾度か考えることがありました。しかし、周囲の友や、先輩に励まされ、改めて考え直すことになり、練習量が足りない事に気がきました。長距離という種目は、他より秀でた素質は必要ありません。他より多く練習を消化して、着実に力をつけていきます。それまでごまかしながらやっていたのですが、完全に切り換えて、とにかく走ることにしました。県大会で予選落ちした悔や



自分であらたにスケジュールをどうにか全てこなし、疲労さえ残っていないならば必ずやれるという自信をもって北信越大会に望みま

た。自分であらたにスケジュールをどうにか全てこなし、疲労さえ残っていないならば必ずやれるという自信をもって北信越大会に望みま

は、前半から先頭について早目に自分の位置を確保した方がよい。とにかく離れない様。その前夜の先生を囲んでのミーティングは高山先輩(現佐渡高校勤務)が訪ねてくれ話された、最後まで粘った。ここで自分を支えてくれたものは、高山先輩の言葉と全国大会への欲望でした。結局、最後に振り切り、自己ベスト記録を二十秒更新してゴールしました。(十五分二十八秒)振り返って見ると、新潟高校陸上部に入部して本当に良かったと思つています。陸上の一歩一歩晴らしい場面を体験、またさせてもらいました。

青山陸上部の輝かしい伝統の中に生きつづける先輩と後輩の強く且つ温かい絆こそ、我々を支えてくれた最大のものです。

高校二年間の生活の中で教室では学び得なかつた貴重な「絆」を我々も大切に守り、先輩達の築いた伝統に報いるよう全国大会では頑張ります。そして我々もこれからの後輩のために役立つ先輩になれるよう努力する覚悟です。

右発起人

同窓 小山久一(35回)
五月女好司(72回)
池 政栄(36回)
阿部 正
阿部芳男(40回)
内山 巖(43回)
大橋慎助

お問い合せ及び加入申し込みは新潟高校内、青山棋院設立事務所まで、

昭和三十四年に卒業したので、やがて、高校を出てから十七年になる。遠くなったようではあるが懐かしい青春の一時でもあった。最近の交通ラッシュで、廃止になつてすでに久しいと聞く、校区一周駅伝競争は思い出の行事である。

入学したての一年目、まだクラスメートとも充分になんではい

その頃の校区を一周すると、本校をスタートし、内野から白根横越、阿賀野川の土手を走り、学校へと戻ってくるのである。私の担当はたしか白根在の小学校の前から大野の町までであった。当時

クラス対抗 校区一周駅伝競争

67回石田瑞穂

は一学年七クラスで合計二十一クラスが、それぞれクラスの名譽をかけて精銳を走らせるのである。区間記録賞とか五人抜き賞とかの特別賞もあった。五人抜きをやれるのは、前半の区間を走つた者のうまい具合に四人まで抜くことができたが、あと一人というところで賞を逃した。三人目は上級生だったので、伴走者が、自転車の上から、「こら、先輩こと抜くやつがあつたか、」などどなつてい

方が有利であった。タスキをもらった。かまわず抜いた。お蔭かどうか、クラスは総合で第四位となった。二年目も選ばれ

行なわなかつたのですが、決心して始めれば、続けられるものです。この効果は、非常に大であったと思います。新人戦県大会では、僅かですが初めて十六分を切つて二位に入賞しました。この時点で、全国大会出場を心に誓つて、冬場の走り込みにかけました。しかし三月下旬に足を痛めてしまい、大事な一ヶ月を遊んでしまいました。その結果、地区大会から苦しい試合を強いられました。練習不足からくる不安感で思い切つたレースができず、その上に身体の不調が重なり最後まで力を出しきれませんでした。県大会を無事通過した後は、とにかく後悔しない様に己に厳しく安易に妥協しない、自分ができる限りの練習をしまし

た。自分であらたにスケジュールをどうにか全てこなし、疲労さえ残っていないならば必ずやれるという自信をもって北信越大会に望みま

青山棋院設立について

生徒の必修クラブにも囲碁クラブができたことだし、青山会館には天玄の音があつて、碁盤も備わつてのことだし、どうだろうか?

お問い合せ及び加入申し込みは新潟高校内、青山棋院設立事務所まで、